

平成19年5月10日発行（年5回発行）

昭和57年7月 学術刊行物指定 ISSN 0285-9955

2007年5月 第57巻3号

Vol.57, No.3 May, 2007

全日本鍼灸学会雑誌

Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion



社団法人 全日本鍼灸学会学術大会 岡山大会

The 56th Annual Meeting of The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion in Okayama

輝く鍼灸—これからの挑戦
スポーツ分野における鍼灸の役割

会期 平成19年6月8日（金）～10日（日）

会場 倉敷市芸文館・倉敷市民会館

市民公開講座 **無料**

「アスリートへのメディカルサポート」

障害の予防・診断・治療

■開催日/平成19年6月10日（日）

■会場/倉敷市芸文館

社団法人 全日本鍼灸学会発行

The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion

耳穴圧豆療法と食事療法併用治療の内臓脂肪型肥満に及ぼす影響

1) (財)ヘルス・サイエンス・センター 中・西医結合研究所

2) 北里大学医学部循環器内科学

長森夏弥子(崔邁)¹⁾、青山 直善²⁾

【目的】 以前、肥満患者を対象に、耳穴圧豆法単独治療 (A療法) と耳穴圧豆法+食事療法の併用治療 (B療法) を施行したところ、両療法とも有意な減量効果を認めたことを報告した。但し、A療法患者の脂肪対総エネルギーの比率が異常に高く、鉄分などの摂取量が需要量以下であったのに対し、B療法患者では栄養素摂取バランスが良好であった。それ故、今回は20症例の内臓脂肪型肥満者を対象にB療法を3ヶ月間施行し、どのような効果が生じているかを検討した。

【方法】 a耳穴圧豆治療を2回/週施行し、1200Kcal/日の食事指導を行った。b評価項目は、体格指数 (BMI)・体脂肪率・臍周囲径・血清脂質・肝機能および肝エコー所見。c統計：治療前後の測定値はPaired t-test (危険率5%) で比較、相関分析は単回帰分析を行った。

【結果】 治療後BMI・体脂肪率・臍周囲径・総コレステロール・中性脂肪・GOT・GPT・ γ -GTPが治療前より有意に低下 ($p<0.05$) し、BMI・体脂肪率の減少と臍周囲径減少の間に正の相関を認めた (各々 $r=0.6p<0.01$, $r=0.5 p<0.05$)。肝エコーでは脂肪肝の消失、改善を認めた。

【考察と結語】 B療法は、BMI・体脂肪率と臍周囲径を低下させ、脂質代謝および脂肪肝を改善した。耳介刺激による減量効果は、食餌性肥満ラットを用いた実験より、脂肪組織でのLeptin生成促進およびLeptin受容体の結合能力を改善し、摂食中枢の抑制、満腹中枢の興奮を誘導することに起因していると言われている。近年、メタボリックシンドローム (MS) が心血管病易発症状態として注目されており、LeptinはMSのアディポサイトカインのひとつでもある。耳穴圧豆療法と食事療法の併用治療が、MSの動脈硬化性疾患の発症基盤として重要な内臓脂肪を有意に減少させる可能性が示唆された。

キーワード：耳穴圧豆療法、内臓脂肪型肥満、体格指数 (BMI)、体脂肪率、臍周囲径